令和 7 年 12 月 15 日

JOGMEC カレント・トピックス
独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構

石炭の価格推移と需給動向（2025 年 11 月）

石炭開発部企画課　大竹正巳

価格推移（11 月）

- 高品位一般炭 CIF 欧州：温暖な天候で石炭需要は弱く前半は 95-96$/ﾄﾝ台のﾚﾝｼﾞ相場の後、気温低下や風力発電出力低下により 96-97$/ﾄﾝ台で推移、月末は高値入札の影響で 98$/ﾄﾝ近くに上昇。
- 高品位一般炭 FOB 豪州：中国による低品位炭の輸入需要急拡大と混焼用としての高品位炭の利用需要増加により、上旬に 104$/ﾄﾝ台から 108$/ﾄﾝ台に上昇。下旬は 109$/ﾄﾝ台の横ばいで推移。
- 強粘結炭 FOB 豪州：中国・インドの需要低迷でスポット取引に乏しく、上旬 196$/ﾄﾝ付近から中旬 194-195$/ﾄﾝ台に低下。下旬はインドの需要回復の兆しと供給タイト感から 198$/ﾄﾝ台に上昇。

需給動向（一般炭）

- 豪州 Newcastle 港の 11 月の石炭出荷量は、前年同月比+0.6%の 1,263 万ﾄﾝに微増。1～11 月累計は前年同期比▲1.0%の 1 億 3,379 万ﾄﾝで、1～2 月に二桁台の前年比マイナス幅が縮小。
- インドネシアの 10 月の石炭輸出量は前年同月比▲7.6%の 4,782 万ﾄﾝと減少。日本・韓国向け輸出が増加するも、二大消費国の中国（▲19.7%）およびインド（▲3.8%）の輸入需要減退が影響。
- 中国の 10 月の原炭生産量は、過剰生産取り締まりの強化により前年同月比▲2.3%の 4 億 675 万ﾄﾝで 4 か月連続マイナス。一般炭輸入量は▲14.2%の 3,015 万ﾄﾝで、前年比マイナス幅が再び拡大。
- 中国の 10 月の総発電量は前年同月比+7.9%の 800TWh で、同月では過去最高を記録。水力が台風上陸による豪雨が一因で+28.2%の 135TWh と大幅増加、火力は+7.3%の 514TWh。
- インドの 11 月の総発電量は前年同月比▲1.8%の 132TWh と減少し、2 か月連続で前年を下回る。前月の多雨の影響により水力が+13.8%の 10TWh と増加、火力は▲6.5%の 94TWh と低迷。
- インド国内生産の 7 割強を占める CIL 社による 11 月の石炭生産量は、前年同月比+1.2%の 6,800 万ﾄﾝに増加。石炭出荷量は、火力発電が低調となった影響で▲0.9%の 6,270 万ﾄﾝと僅かに減少。
- 日本の 10 月の一般炭輸入量は前年同月比+5.1%の 1,055 万ﾄﾝでほぼ平年並み。瀝青炭 1 ﾄﾝ当たりの平均輸入単価は、市況低迷を背景に 4 月以降は前年より 7～8 千円安い 1 万 7～8 千円台で推移。

需給動向（原料炭）

- 豪州 QLD 州主要 4 港の 11 月の石炭出荷量は、前年同月比▲2.9%の 1,744 万ﾄﾝと減少。このうち Gladstone 港では、中国と日本向けが顕著に減少した影響で前年同月比▲12.4%の 590 万ﾄﾝ。
- 中国の 10 月の原料炭輸入量は前年同月比+6.4%の 1,059 万ﾄﾝに増加。長期化する鉄鋼需要低迷の中、過剰生産取り締まり強化による生産量抑制で輸入需要が高まり、2 か月連続で前年比プラス。
- 日本の 10 月の原料炭輸入量は前年同月比+7.1%の 373 万ﾄﾝと増加も、1～10 月累計は国内鉄鋼需要低迷を背景に前年比▲4.2%の 3,335 万ﾄﾝと低調。10 月の粗鋼生産量は▲1.0%の 685 万ﾄﾝ。
- 世界全体の 10 月の粗鋼生産量は前年同月比▲5.9%の 1 億 4,330 万ﾄﾝと減少、中国での減産（▲12.1%の 7,200 万ﾄﾝ）が影響し平年より低水準。インドは+5.9%の 1,360 万ﾄﾝで高水準を維持。

一般炭の価格推移

➢高品位一般炭 CIF 欧州

欧州の一般炭需要は、2021 年～2022 年に天然ガス供給ひっ迫により増加したが（2022 年 3 月～8 月に 400$/トン超)、2022 年 12 月以降は 200$/トンを下回り、2023 年 5 月頃からは概ね 100～120$/トンの範囲で推移した。2024 年に入りロシア石炭企業の制裁対象への追加、中東情勢の緊迫化、米国 Baltimore 港の橋崩落事故、ロシアとウクライナの軍事衝突等により短期的に上昇する局面が見られる中、8 月初旬にはガス輸送ルートに近いロシア西部へのウクライナ軍の越境攻撃により欧州における天然ガス供給ひっ迫懸念が高まったことで、8 月は 120$/トンを超える展開となり、中旬には 2023 年 12 月以来の高値となる 127$/トン近くまで上昇した。さらに 11 月に入ってからは中央ヨーロッパ諸国向けロシア産天然ガスのパイプライン供給停止懸念が再燃し、欧州電力市場における天然ガス価格が急騰した影響を受けて 8 月以来の 125$/トン超えとなったが、電力卸価格の軟化に伴い下落基調となった。12 月末はロシア産天然ガスのウクライナ経由パイプライン輸送の停止、2025 年に入り米国政府によるロシア石油業界に対する制裁強化で天然ガス需給タイト感が高まった影響で 110$/トンを超える場面もある一方で、2 月は米国・ロシア両大統領のウクライナ和平交渉、欧州諸国による欧州委員会へのガス貯蔵目標の引き下げ要請の発表等を受けて欧州電力市場のエネルギー価格が下落し、約 1 年ぶりに 100$/トンを下回り月末には 91$/トン近くまで低下した。その後は、地政学的緊張の高まりとガス供給懸念が再燃し 3 月は上昇基調となり、4 月はコロンビア Cerrejon 炭鉱等で減産調整に入る方針が明らかになったことで 105$/トン前後まで値上がりする局面もみられたが、米国主導の関税措置を巡る市場の不確実性の高まり等により弱含む展開となり、月末に 93$/トン台まで低下した。5 月に入り EU が 2027 年までにロシア産ガス輸入量をゼロにする目標を発表したことを受けて欧州電力市場の LNG 価格が上昇した影響で値上りし、一時 100$/トン近くまで上昇するもロシア・ウクライナ停戦合意への期待感などから中旬に約 93$/トンまで下落し、その後は LNG 価格や電力価格の上昇に牽引されて 95～97$/トン台で推移した。6 月は北欧からの LNG 供給量の減少、気温低下の予報、イスラエル・イラン軍事衝突による LNG 価格の値上りを受けて 108$/トン台まで上昇、6 月末から 7 月上旬にかけてはヨーロッパ全土に及んだ熱波の影響で石炭燃焼量が増加し、7 月初旬に今年 2 月初旬以来となる 110$/トン近くまで値上がりした。7 月中～下旬は高気温が和らぎ冷房需要が減少、LNG 供給も安定していることで 100$/トンを下回るものの、米国との関税措置を巡る貿易協議や、米国によるロシア・ウクライナ停戦合意要求を背景とした LNG 価格の上昇等に牽引され、8 月は再び 100$/トンを超える局面もあったが、天然ガス供給量の回復や気温緩和で電力需要が減少したことで下落基調となり、月末には 4 月以来の水準となる 92$/トン台に低下した。9 月は欧州全土で温暖な天候が続きショルダーシーズンでのスポット需要が低迷する中で 90～95$/トンのレンジ相場で推移した後、10 月中旬には 2021 年 5 月以来の低水準となる 86$/トン台まで下落したが、下旬にかけては米国の対ロシア石油産業制裁が LNG にも及ぶ可能性が示唆されたことで 99$/トン近くに上昇した。

11 月前半は平年と比べて温暖な天候が続く中、天然ガスの安定供給と高い在庫水準、堅調な再エネ発電出力により石炭燃焼需要は低調となり、95～96$/トン台の狭いレンジで推移した。後半は、米国が主導するロシア・ウクライナ和平交渉の進展でエネルギー価格全体が弱含む場面もみられたが、欧州全域での気温低下予報、ドイツでの風力発電出力低下、北欧のガス供給施設の停電発生等を背景に 96～97$/

トン台で推移し、月末には1月到着玉の高値入札の影響を受けて98$/トン近くに上昇した。

➢高品位一般炭 FOB 豪州

豪州産高品位炭価格は、CIF 欧州価格の高騰から 2 か月遅れの 2022 年 5 月～10 月にかけ一時 400$/トンを超えたが、CIF 欧州価格の下落後も、他の銘柄と比べ大幅に高値の状態が続いていた。その後 2023 年 1 月頃より値下げ基調に入ってからは、夏期の電力需要増や天然ガス価格の上昇による変動はあるものの、CIF 欧州よりも概ね 20～30$/トン程度割高の 120～150$/トン台で推移した。2024 年は、アジア市場の需要低迷により 5 月初旬の 140$/トン台から緩やかに下落基調が続いていた中、夏期の冷房向け電力消費量の高まりにより石炭火力の需要が増加したことで 7 月初旬の 130$/トンから値上げ局面に入り、地政学的リスクによる欧州やアジアでの天然ガス価格の上昇も影響し 8 月中旬には前年 12 月以来の 145$/トン超えとなった。その後、世界的なエネルギー市況の軟化を背景に 9 月下旬まで 5 週連続の下落基調で 134$/トン台まで低下したが、10 月に入ってからは暖房需要に備えた電力会社の在庫補充の動きから再び 145$/トン台に上昇した。10 月下旬以降は、天然ガス市況の軟化を背景に需給が緩和されたことで小幅な下落傾向が続き、11 月は 136～142$/トン台、12 月は 123～136$/トン台、1 月は 113～122$/トン台と徐々に低下し、2 月末には 2021 年 5 月以来となる 100$/トン割れとなった。3 月に入りインドネシアでは輸出取引に石炭指標価格（HBA）の適用が義務化されたことで市場関係者間に混乱が生じて市場取引が停滞する一方で豪州炭への関心が高まり、中旬には 100$/トン近くまで値上がりしたが、再び下落基調となり 3 月下旬に 2021 年 5 月以来の 95$/トン台に低下した。4 月は欧州市場をはじめ世界的な一般炭市況の改善を背景に上旬に 96$/トン台に上昇した後、アジア市場で長期化する輸入需要低迷や暖房用電力消費量の減少を背景に中旬以降は続落し、下旬に 91$/トン台まで低下した。その後 NSW 州では 4 月末～5 月初めの悪天候、および 5 月下旬の豪雨・洪水の影響で Newcastle 港での港湾荷役と鉄道物流に遅延が生じたため上昇基調に転じ、5 月末には 2 月以来となる 100$/トンを超え、夏のピーク需要期に向けたスポット取引増加や中東での軍事衝突に起因する世界的な LNG 供給ひっ迫懸念と価格高騰も押し上げ要因となり 7 月中旬に 109$/トン近くまで上昇した後、日本の電力会社によるスポット取引が落ち着いたことで 109$/トン台でのほぼ横ばいで推移した。7 月末に Newcastle 港 Kooragang ターミナルのシップローダー 1 基が交換作業に入り荷役能力が低下した影響で 8 月前半は 112$/トン台に上昇した後、同月後半以降は電力会社の在庫が確保されていることや夏の電力需要ピーク期が過ぎたことでスポット取引に乏しく、9 月下旬に 102$/トン付近まで低下した。10 月も引き続きスポット需要は弱く 104$/トン前後の横ばいで推移した。

11 月も冬期暖房需要向け在庫補充のためのスポット取引が低調である中、5,500kcal 炭の急騰に牽引されるかたちで上旬に 104$/トン台から 108$/トン台に上昇した。豪州生産者側は中国向け需要が増大した 5,500kcal 炭の生産比重を高め、中国ユーザー側では暖房シーズンに備えて 6,000kcal 炭を混焼用として利用する動きが広がったことが背景にある。中旬に小幅に下落したが、下旬は 109$/トン台の横ばいで推移した。

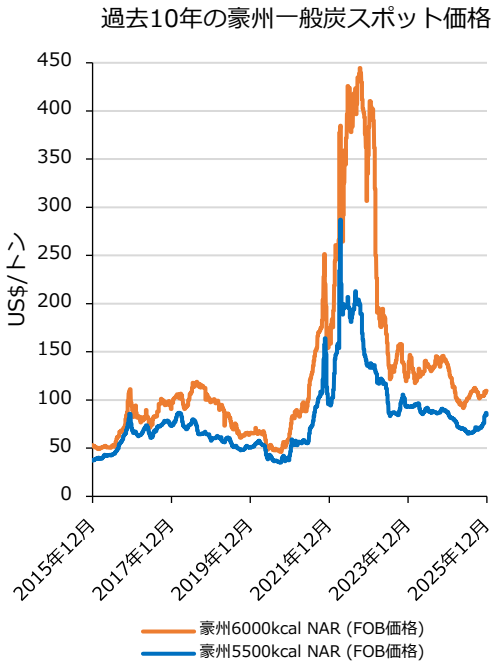
➢低品位一般炭 FOB 豪州

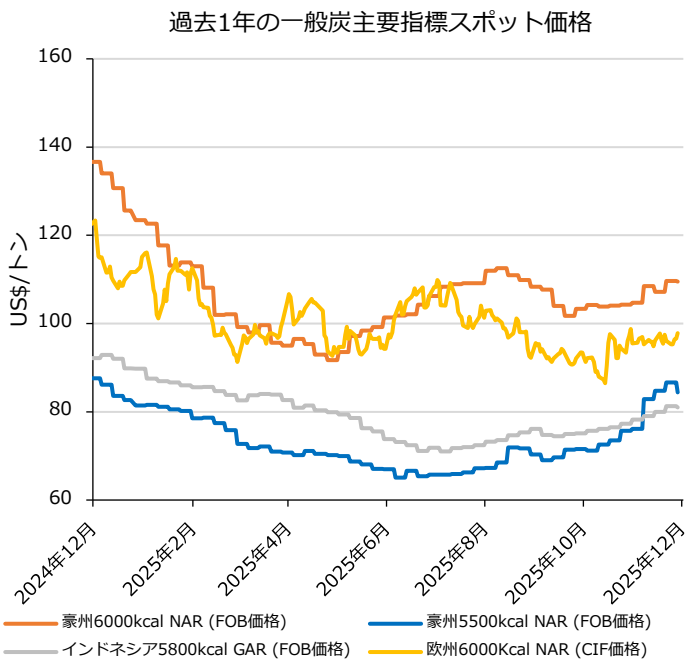
中国の旺盛な需要が下支えしているアジア向け一般炭は、2024 年 3 月下旬より気温上昇や景気減速等により、中国国内の需給が一時緩和したことでスポット価格が低下したが、5 月に入り夏季の需要期に向けた在庫積み増しの動きが始まったことで強含みに転じた。その後、低品位（5,500kcal/kg）炭 FOB

豪州スポット価格は需要低迷を背景に 5 月下旬の 92$/トン台から緩やかな下落基調が続いていたが、7 月上旬に高品位（6,000kcal/kg）炭と同様に緩やかな上昇に転じ、その後は 86～88$/トンのレンジでの小幅な値動きとなった。10 月上旬から中旬にかけては 90$/トンをやや上回る高値をつけていたが、高品位一般炭の動きと調和して小幅な下落基調に転じ、11 月は概ね 88～89$/トン台、12 月は 82～86$/トン台、1 月は 80～81$/トン台、2 月は 72～78$/トン台、3～4 月は 70～72$/トン台、5 月は 2021 年 6 月以来 4 年ぶりに 70$/トンを下回る 66～69$/トン台と弱含みで推移した。6 月に入り中国の購買意欲が回復してきたことで、65$/トン台を底値として緩やかに改善する展開となり、更には 6 月末～7 月初旬の荒天による Newcastle 港での一時的出荷遅延も押し上げ要因となり続伸した。中国では 7 月に主要産炭地での豪雨・洪水や炭鉱の過剰生産取締りによる国内供給制限が上昇圧力となり、8 月に入ってからも値上がりが継続し中旬には 72$/トン近くに上昇したが、夏のピーク需要期が過ぎショルダーシーズンに向けた輸入需要の低迷から下落基調に入り、9 月上旬に 70$/トン割れ。中国での国内石炭価格の上昇や、国慶節を前にした在庫補充の動き等により回復し、9 月末に 71$/トン台に上昇した。休暇明けからは電力会社による冬の在庫補充の開始や、炭鉱に対する安全検査強化の政府発表により供給ひっ迫懸念が広がった影響で、10 月末に 76$/トン台まで値上がりした。

11 月に入ってからも中国での過剰生産に対する取り締まりや安全検査・環境監査の影響を受けて値上げ基調が続く中、港湾在庫の減少、気温低下による石炭燃焼量増加および冬期暖房シーズンに向けた在庫補充により国内炭供給がより一層タイトになるとの懸念から、上旬に 76$/トン台から 83$/トン近くに急騰した。その後も値上げ基調が続き下旬には 2024 年 12 月と同水準の 86$/トン台まで上昇したが、月末は中国の需要が弱まったことで 84$/トン台に下がった。

内モンゴル自治区、陝西省、山西省の主要生産拠点での検査強化による生産中断に加え、一部の国営企業では生産許可数量超過を回避するために意図的に減産していることが供給ひっ迫懸念に拍車をかけた。インドネシアでは雨季に入り生産・供給活動が停滞し、中国のバイヤーが豪州に調達先をシフトさせていることも価格押し上げの一因となった。





出所：Argus Media Limited（https://www.argusmedia.com/en）のデータを基に作成

一般炭の需給動向

豪州

・ 一般炭最大の輸出港である NSW 州 Newcastle 港の 11 月の石炭出荷量は、前年同月比+0.6%、前月比▲6.8%の 1,263 万トンとなった。主な輸出先は日本、中国、韓国、台湾等。年初からの累計輸出量は前年同期比▲1.0%の 1 億 3,379 万トンで、暴風雨や需要低迷の影響で 1 月と 2 月に 10～20%台あった前年比マイナス幅が縮小している。

・ 11 月下旬の Newcastle 港の滞船数は、記録的な豪雨・洪水発生後の 6 月中旬のピーク時からは 5 割程度減少している。Port Waratah Coal Services (PWCS)が運営する Kooragang ターミナルでは、7 月末から始まったシップローダー交換作業が 11 月 20 日に終了し、約 4 か月ぶりに 3 基稼働体制に戻った。Newcastle Coal Infrastructure Group（NCIG）が運営する石炭ターミナルでは、シップローダー 1 基が 2026 年 1 月中旬からメンテナンスのため停止する予定である。

インドネシア

・ インドネシア中央統計庁による 10 月の石炭輸出量は、前年同月比▲7.6%の 4,782 万トンと減少した。日本（前年同月比+31.9%）や韓国（同+19.9%）への輸出が増えたものの、二大消費国である中国（同▲19.7%）およびインド（同▲3.8%）の輸入需要の減退が影響した。年初からの累計輸出量は、前年同期比▲7.3%の 4 億 2,343 万トンと伸び悩んでいる。

・ 10 月の主な輸出先および輸出量は、中国 2,122 万トン（構成比 44.4%）、インド 769 万トン（同 16.1%）、フィリピン 310 万トン（同 6.5%）、日本 275 万トン（同 5.8%）、韓国 272 万トン（同 5.7%）、マレーシア 258 万トン（同 5.4%）、バングラデシュ 208 万トン（同 4.4%）の順となった。

中国

・ 中国国家統計局の発表によると、10 月の原炭生産量は前年同月比▲2.3%の 4 億 675 万トンで、14 か月ぶりに前年比マイナスに落ち込んだ 7 月から 4 か月連続して前年割れとなった。主要産炭地での炭鉱の過剰生産に対する検査の強化が生産量を抑制している。1～10 月累計の原炭生産量は前年同期比+1.5%の 39 億 7,319 万トンで、1～3 月累計の前年同期比+8.1%をピークに伸び率が縮小傾向にある。

・ 主要産炭省/地区別の原炭生産量は、山西省 1 億 1,138 万トン（前年同月比▲0.6%）、内モンゴル自治区 1 億 686 万トン（同▲4.4%）、陝西省 6,936 万トン（同+3.6%）、新疆ウイグル自治区 4,482 万トン（同▲5.0%）の順。全国生産量の 8 割以上を占める 4 省/地区合計の生産量は前年同月比▲1.6%で、7 月の天候要因による減産以降、過剰生産取締りや安全検査・環境監査の影響で前年比マイナスが続き、全体生産量の伸びを押し下げている。

・ 海関総署が発表した 10 月の一般炭輸入量（褐炭含む）は、前年同月比▲14.2%の 3,015 万トンとなった。過去最高を大きく更新した前年からは減少しているものの、生産許可数量遵守の厳格化、安全検査・環境監査による国内生産抑制によるひっ迫を背景に 7 月以降の輸入量は増加傾向にある。年初からの累計輸入量は前年同期比▲13.5%の 2 億 8,087 万トン。

・ 10 月の一般炭の主な輸入元および輸入量は、インドネシア 1,828 万トン（前年同月比▲13.8%）、豪州 603 万トン（同+5.8%）、ロシア 307 万トン（同▲33.0%）、モンゴル 235 万トン（同▲5.9%）、フィリピン 33 万トン（同▲57.5%）の順。

・ 中国国家統計局が発表した 10 月の総発電量は 800TWh となり、秋のショルダーシーズンに入り電力需要が落ち着いていることで前月からは 3.1%減少したものの、前年同月より 7.9%増加し 10 月単月としては過去最高を記録した。10 月上旬に台風 21 号（マットゥモ）が中国南部に上陸し豪雨が発生したことも一要因となり、水力が前年同月比+28.2%の 135TWh と大幅増加した。火力も同+7.3%の 514TWh と増加した他、原子力が同+4.2%の 39TWh、太陽光が同+5.9%の 39TWh、風力は同▲11.9%の 73TWh となった。
・ 2024 年 10 月以降下落基調が続いていた中国の一般炭スポット価格（5,500kcal/kg 炭 FOB 渤海湾）は、6 月半ば頃の約 618 元/トン（約 86$/トン）を底に回復基調に転じ、9 月末に約 710 元/トン（約 100$/トン）、10 月末に約 770 元/トン（約 108$/トン）に上昇し、11 月末には 2024 年 11 月下旬と同水準の約 830 元/トン（約 117$/トン）まで戻した。主要産炭地での安全検査・環境監査の更なる強化により国内生産が抑制され、暖房シーズンの在庫補充に向けた供給がタイトになるとの懸念が押し上げ要因となった。

インド

・ インド中央電力庁が発表した 10 月の発電所向け一般炭輸入量は、前年同月比▲43.8%の 283 万トンと大幅に減少し、14 か月連続で前年割れとなった。インド全土でのモンスーン明けは 10 月 16 日でほぼ平年並みであったが、雨天が多かった影響で石炭火力発電需要が縮小した。内訳は、公営電力（中央政府および州政府）が▲65.2%の 12 万トン、IPP（独立系民間発電事業者）が▲42.3%の 271 万トン。
・ インド中央電力庁の発表によると、11 月の総発電量は前年同月比▲1.8%の 132TWh と減少し、2 か月連続で前年を下回った。平年よりも雨量が多かった影響で水力が前年同月比+13.8%の 10TWh と伸びたのに対して、火力は同▲6.5%の 94TWh と落ち込んだ。
・ 国内生産の 7 割強を占める Coal India 社による 11 月の石炭生産量は、前年同月比+1.2%の 6,800 万トンと増加し、3 か月ぶりに前年実績を上回った。石炭出荷量は、火力発電が低調となった影響で前年同月比▲0.9%の 6,270 万トンと僅かに減少した。
・ 11 月末時点の発電所向け石炭在庫は、火力発電が振るわず石炭燃焼量が抑制されたため、前月末からは 628 万トン（約 13%）増加して 4,718 万トンとなった。在庫維持日数（在庫量÷一日当りの消費量）は約 18 日。

日本

・ 財務省貿易統計が発表した石炭貿易統計値に基づく 10 月の一般炭輸入量（利用実態に合わせて補正）は、前年同月比+5.1%、前月比+2.2%の 1,055 万トンと増加した。2025 年上半期は平年と比べて低い輸入量で推移した後、猛暑による冷房用電力需要の増加に牽引されて 7 月と 8 月は高い水準に回復したが、9 月と 10 月は静穏な天候のもとで電力需要が落ち着いていることもあり輸入量は平年並みで推移している。
・ 一般炭（瀝青炭）1 トン当たりの平均輸入単価は、ピーク時の 2022 年 11 月の約 6 万円から下落傾向にある中、世界的な市況低迷と対ドル円高の効果もあり 4 月以降は前年よりも 7～8 千円程度低い 1 万 7～8 千円台で推移している。

韓国

・ 韓国の貿易統計による 10 月の一般炭輸入量は 762 万トンで、ショルダーシーズンに入り電力需要が

低減したことで前月から 4.7%減少したが、前年同月からは 40.1%増加した。主な輸入相手国および輸入量は、インドネシア 262 万トン（前年同月比+53.3%）、豪州 242 万トン（同+265.0%）、ロシア 185 万トン（同+23.7%）、コロンビア 69 万トン（同+7.2%）となった。

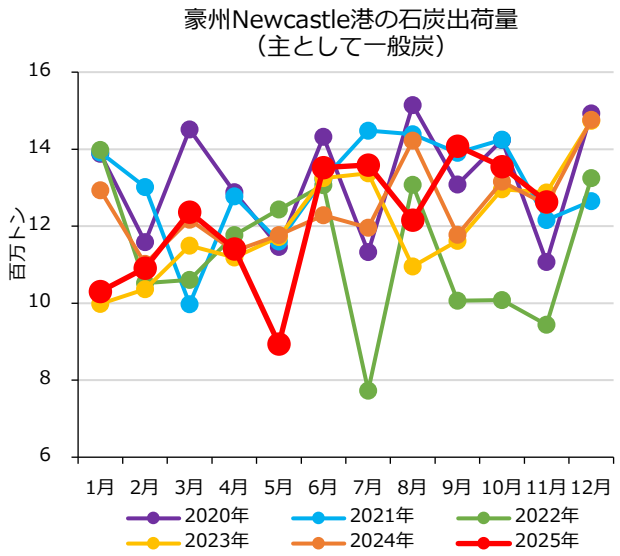
・ 欧米諸国が 2022 年からロシア炭の禁輸措置を講じている中、韓国は価格競争力のあるロシア炭の購入を継続し、8 月の輸入量は 347 万トンと単月としての過去最高を記録し、全輸入量に占めるロシア炭の割合が 37.8%に達した。このような状況のもと、韓国政府は国営電力会社に対してロシア炭を年間総購入量の 10%に制限するよう勧告していることで、9 月の同国からの輸入量は前月比▲21.9%（構成比 33.9%）、10 月は同▲31.7%（同 24.3%）と減少傾向にある。その一方で、豪州炭が 9 月に前月比+52.9%（構成比 20.7%）、10 月に同+46.2%（同 31.7%）と増加している。

・ 韓国政府は、11 月にブラジル・ベレンで開催された国連気候変動枠組み条約第 30 回締約国会議（COP30）において、石炭火力からクリーンエネルギーへの移行を進める脱石炭連盟（PPCA）への加盟を表明、二酸化炭素排出対策が講じられていない石炭火力発電所の新設を中止し、2040 年までに既設発電所を段階的に廃止する方針を示した。韓国が第 3 位の石炭輸出先である豪州においては、今後の石炭生産計画に影響を及ぼす可能性がある。

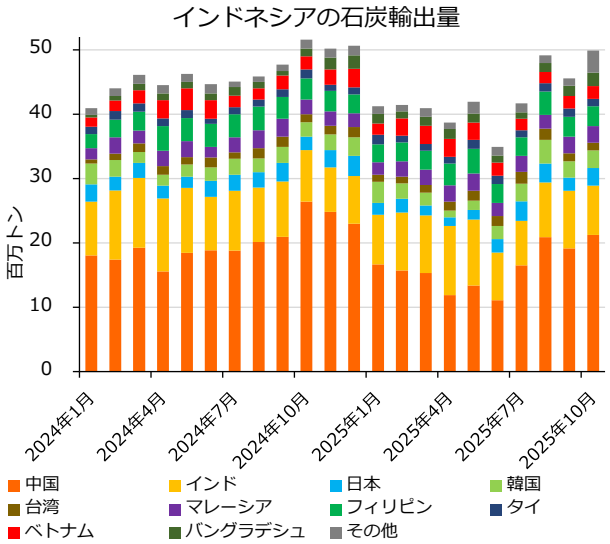
ＥＵ

・ 欧州連合統計局（EUROSTAT）の発表による 9 月の EU 域外からの一般炭輸入量は、前月までの猛暑が和らいで欧州全土で比較的温暖な天候が続き、冷房用電力需要が縮小したことで、前年同月比▲31.1%、前月比▲29.0%の 222 万トンと減少した。主な輸入相手国および輸入量は、コロンビア 57 万トン（構成比 25.7%）、カザフスタン 51 万トン（同 22.9%）、豪州 49 万トン（同 22.3%）、米国 27 万トン（同 12.0%）、南ア 18 万トン（同 8.0%）の順。

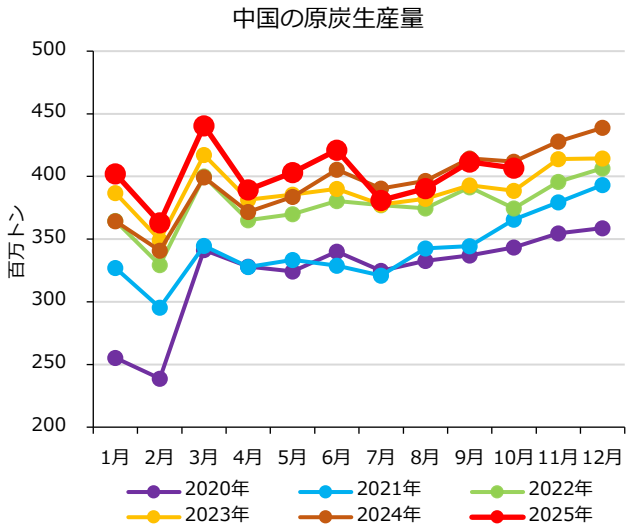
・ 年初からの累計輸入量は前年同期比+3.9%の 2,383 万トンとなった。輸入国別に見ると、世界的に市況が軟化している中で価格競争力のあるコロンビア炭が+19.2%、南ア炭が+19.0%、カザフスタン炭が+14.3%と有意に増加しているのに対し、米国は▲12.8%と減少した。



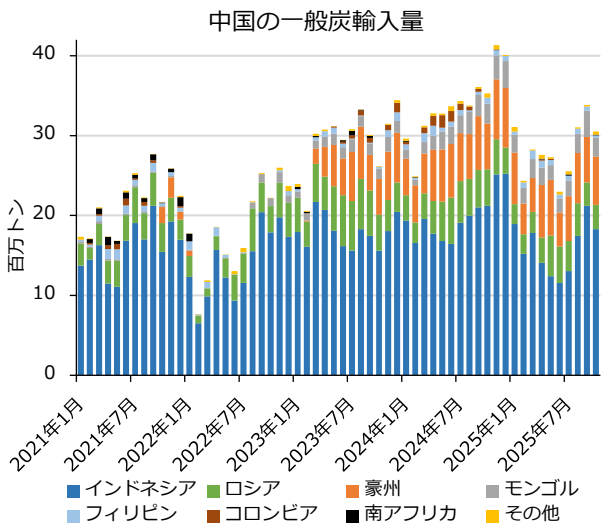
出所：Newcastle 港の月次貿易報告



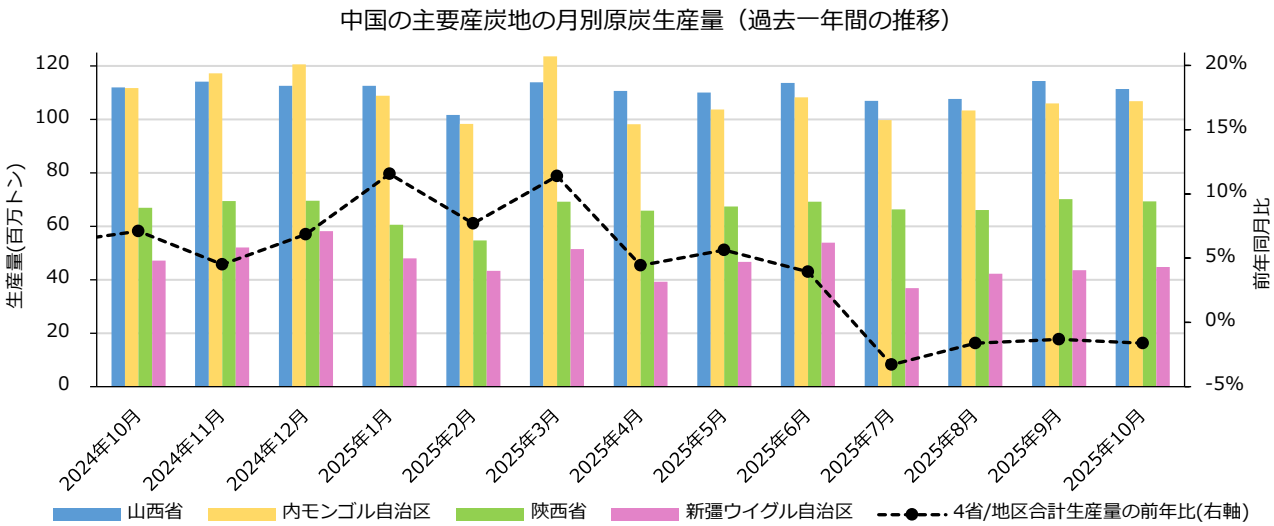
出所：インドネシア中央統計庁



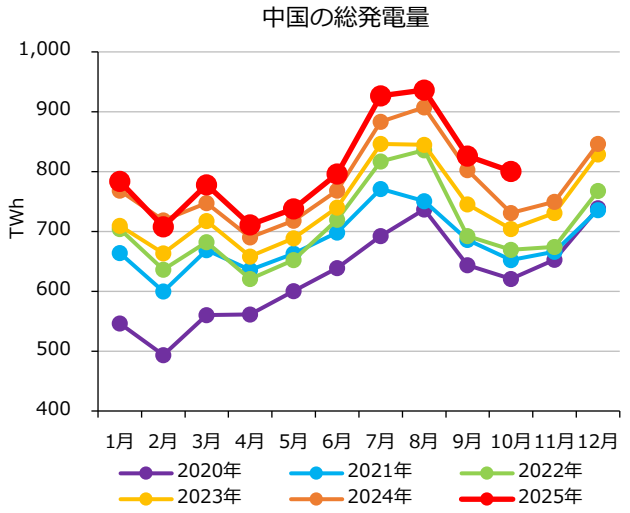
出所：中国国家統計局



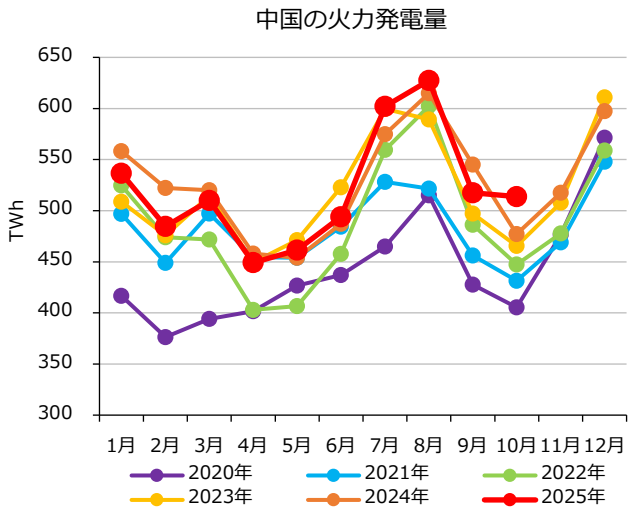
出所：中国海関総署



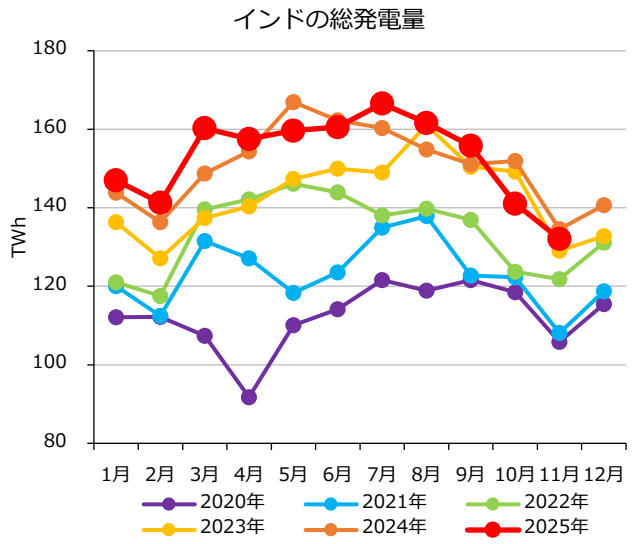
出所：中国国家統計局



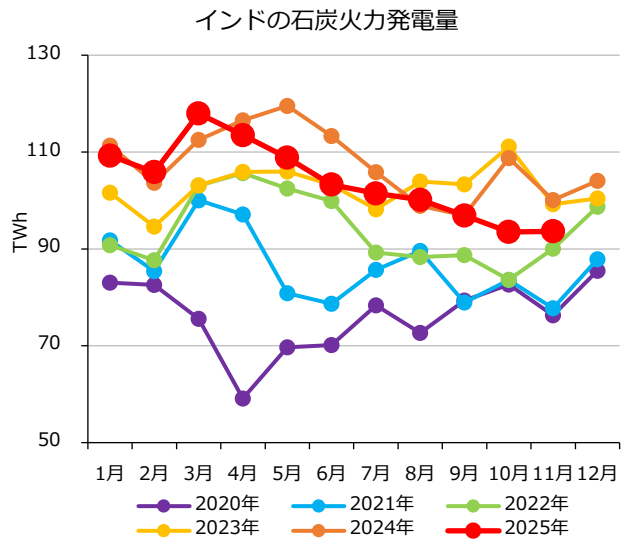
出所：中国国家統計局



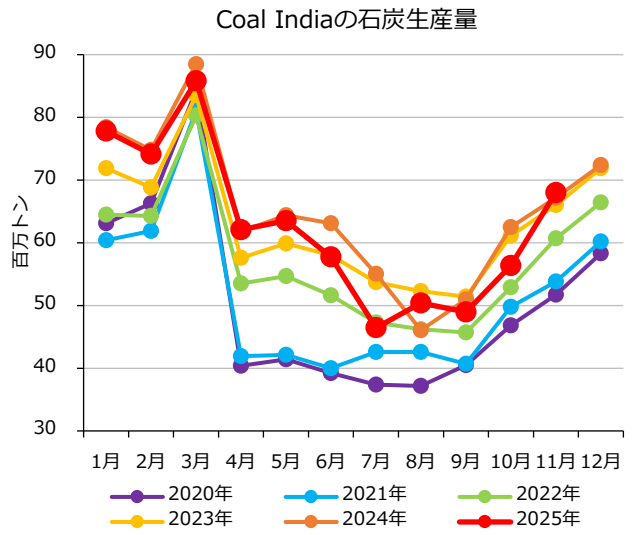
出所：中国国家統計局



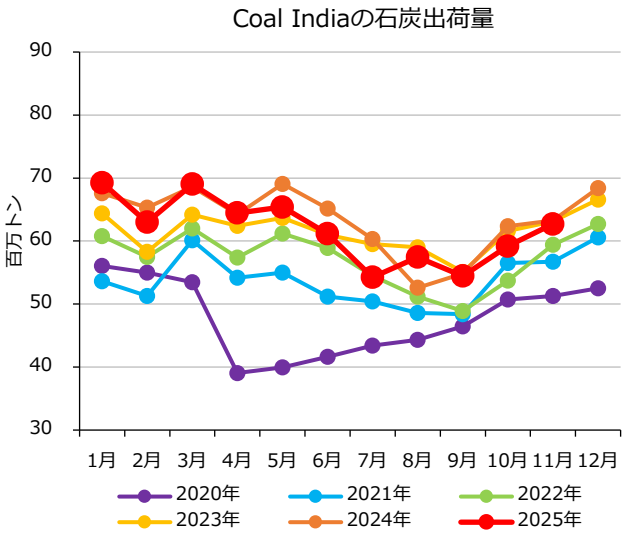
出所：インド中央電力庁



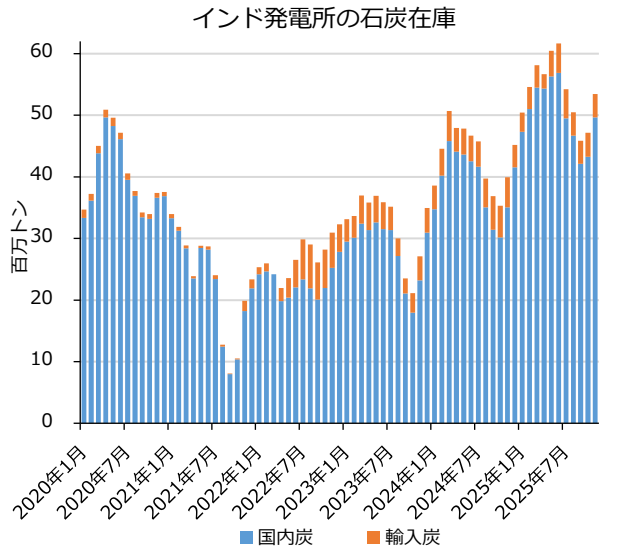
出所：インド中央電力庁



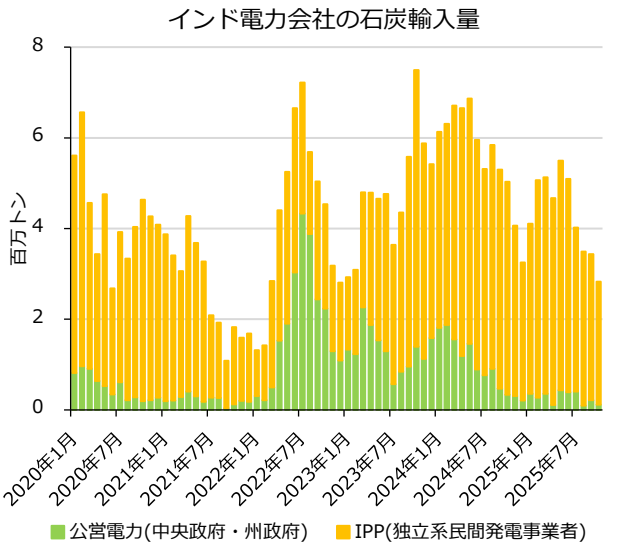
出所：Coal India Limited



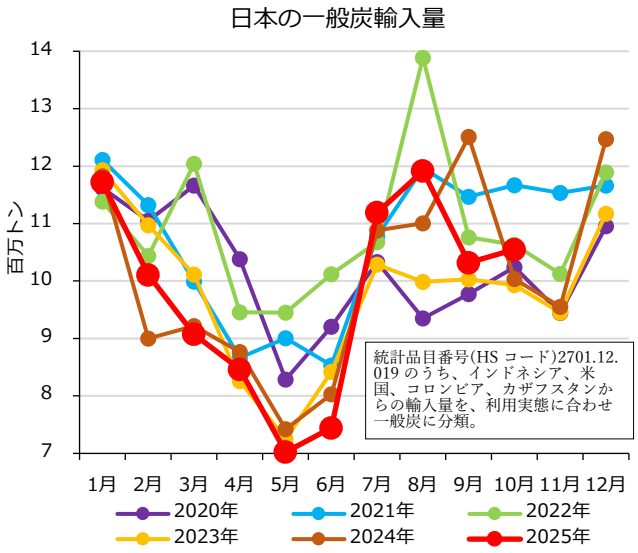
出所： Coal India Limited



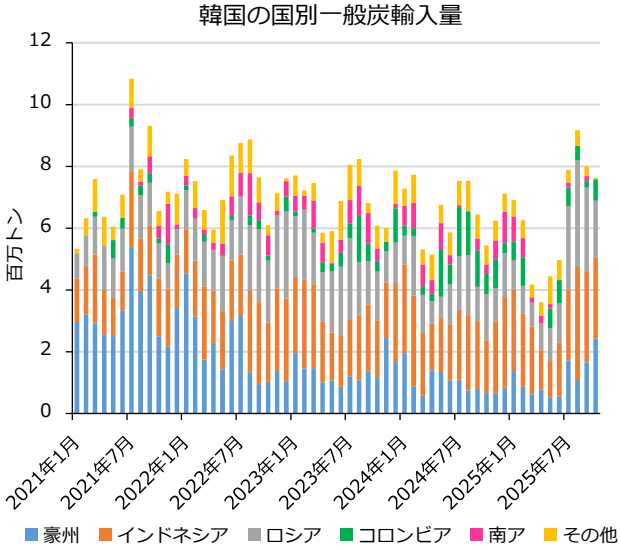
出所：インド中央電力庁



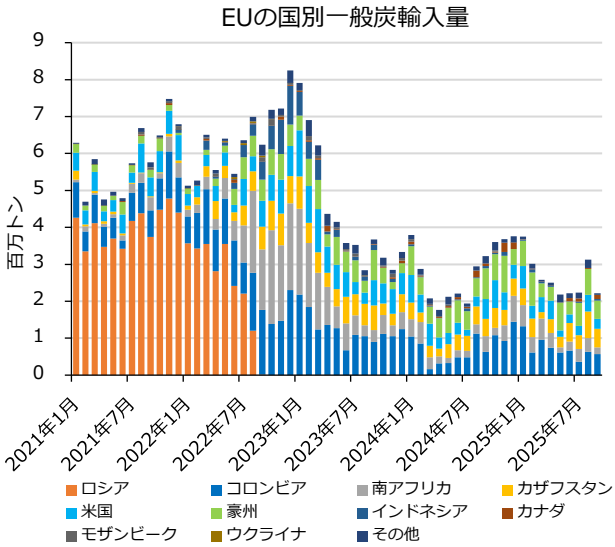
出所：インド中央電力庁



出所：財務省貿易統計



出所： 韓国貿易統計



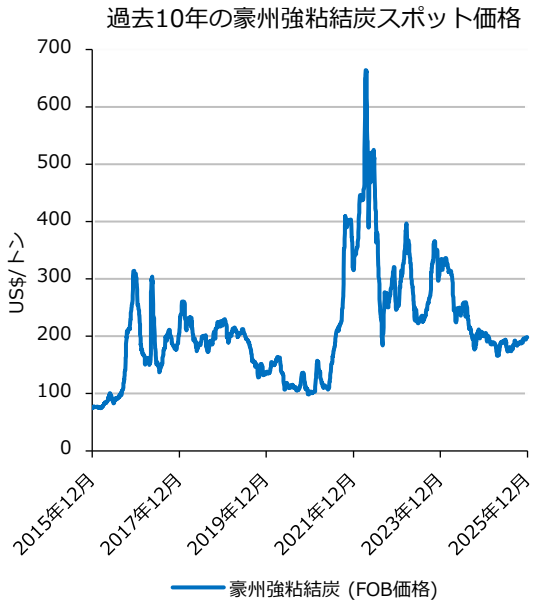
出所：欧州連合統計局

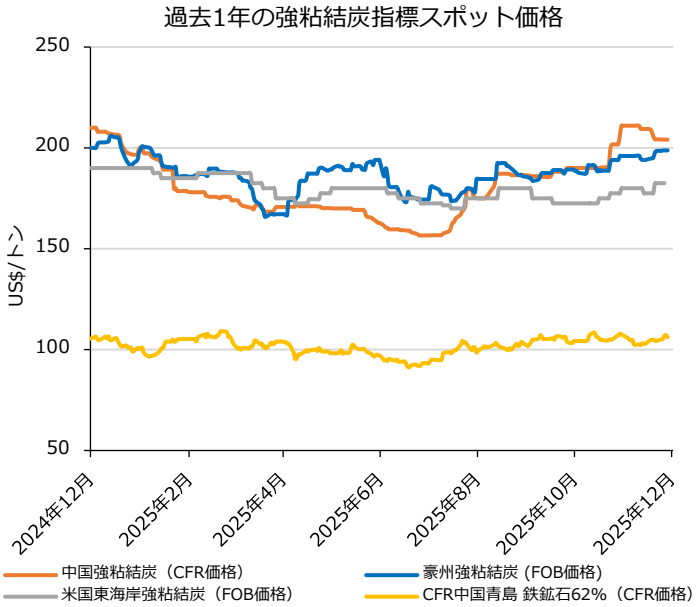
原料炭の価格推移

強粘結炭 FOB 豪州価格は、2021 年に入りコロナ禍から経済活動が再開され鉄鋼需要が増加する中、豪州での雨期の悪天候やコロナウイルスの影響による労働力不足に起因する生産・輸送の停滞により高騰し、加えてロシアによるウクライナ侵攻により、ロシア炭の他ソース代替への動きは一般炭程強くないものの、心理的影響もあって一時的に 600$/トンを超えた。その後、産炭国の天候回復および鉄鋼需要の低迷により急落し、2022 年 8 月には約 200$/トンまで値下がりした。2022 年 12 月以降は、中国のゼロコロナ政策の撤廃による鉄鋼需要増加の期待、豪州 QLD 州北部の天候悪化、QLD 州の石炭輸送鉄道の事故等の影響により値上がりし、2023 年 2 月下旬には 400$/トン近くまで上昇したが、豪州における天候回復や鋼材需要低迷の長期化から値下がりに転じた。その後、インドの好景気に牽引されて原料炭需給はタイト化し、2023 年 10 月には 360$/トンを超える局面も見られたが、世界的な鉄鋼需要の低

迷を背景に下落基調となり、2024 年 8～9 月には 200$/トンを割り込んだ。9 月下旬の中国による景気刺激策発表により一時的に上昇する局面もあったが実需は低調で市況の浮揚力に欠いたことから、その後は横ばい～弱含み、12 月下旬に 190$/トン近くまで下落した。2025 年初は需要回復期待から約 200$/トンに上昇するも、長期化する需要低迷を背景に 1 月下旬に 190$/トンを下回り、3 月上旬までは 185～190$/トンの横ばいで推移し、その後再び下落に転じて 3 月中旬に 180$/トン割れとなった。しかしながら、3 月末の QLD 州 Moranbah North 炭鉱の高濃度一酸化炭素の検出、4 月の NSW 州 Appin 炭鉱での地圧現象による作業員負傷事故および QLD 州 Oaky Creek 炭鉱で地表水貯蔵施設からの漏水事故に起因した相次ぐ操業停止の影響で、4 月下旬に 190$/トン前後まで上昇した後、5 月末までその高値が維持された。その後は、5 月下旬からモンスーン入りしたインドでの鉄鋼需要の減退により 6 月は下落基調となったが、7 月は中国国内の原料炭価格の上昇やインドユーザーの購買意欲の改善等により 185$/トン近くまで上昇し、8 月中旬には 192$/トン台まで引き上げられた。8 月下旬からは、中国での 9 月 3 日の軍事パレードを前に鉄鋼メーカーに対する生産抑制で需要が低迷した影響で下落基調となり、9 月初旬に 183$/トン台まで下落したが、中国での休暇に先立つ在庫補充およびインドでのモンスーン明けに向けた需要回復期待から下旬には 190$/トン近くで推移した。10 月には炭鉱への安全検査・環境監査の全国的な実施や主要産炭地での生産抑制・一時的停止が国内供給ひっ迫懸念を高めたことで、196$/トン付近まで上昇した。

11 月に入りインドではモンスーン明け後の需要回復期待に反して依然として購買意欲に乏しく、中国では炭鉱に対する安全検査・環境監査により供給不安があるものの国内鉄鋼需要が低迷している現状において市場センチメントは弱く、上旬は 196$/トン付近の横ばいで推移した。その後もスポット取引に乏しく中旬は 194～195$/トンに低下したが、下旬に入りインドの需要が徐々に回復し、サイクロンシーズンが近づく豪州で天候要因により供給がタイトになるとの不安感が広がったことで 198$/トン台に上昇し、今年 1 月の水準まで戻した。





出所：Argus Media Limited（https://www.argusmedia.com/en）のデータを基に作成

原料炭の需給動向

豪州

・ QLD 州主要 4 港（Abbot Point、Hay Point、Dalrymple Bay、Gladstone）の 11 月の石炭出荷量は 1,744 万トンとなり、前月からは 5.6%増加したが前年同月比では 2.9%減少となった。4 港のうち原料炭が全出荷量の約 7 割を占める Gladstone 港では、前年同月比▲12.4%の 590 万トンと減少した。主要輸出先としてインド向けが前年同月比+30.8%の 140 万トン、韓国向けが同+9.1%の 105 万トンと増加したが、長期化する鉄鋼需要低迷を背景とした中国向け（同▲48.2%の 97 万トン）および日本向け（同▲24.5%の 129 万トン）の顕著な減少が全体出荷量を押し下げた。

・ メディア報道によると、BHP 三菱アライアンス(BMA)は、最近の石炭価格低迷と QLD 州のロイヤルティの高さを理由に、Saraji South 炭鉱の操業を 11 月に一時停止した。QLD 州 Cook Colliery 炭鉱を一部閉鎖する方針を 9 月に発表した QCoal 社は、その具体的な時期を明らかにしていなかったが、11 月 28 日に同鉱山を閉鎖した模様。

中国

・ 海関総署の発表による 10 月の原料炭輸入量は、前年同月比+6.4%の 1,059 万トンと増加した。長期化する鉄鋼需要の低迷、国内原料炭の供給過剰と潤沢な在庫を背景に 3 月以降は前年同月比マイナスが続いていたが、7 月から主要産炭地での過剰生産取締りによる国内生産量抑制の影響を受けて輸入需要が高まったことで、前月に続き前年同月比プラスとなり、3 か月続けて 1 千万トンを上回った。年初からの累計輸入量は前年同期比▲5.1%の 9,412 万トン。

・ 10 月の原料炭の主な輸入元および輸入量は、モンゴル 537 万トン（前年同月比+36.4%）、ロシア 277 万トン（同+8.3%）、豪州 105 万トン（同▲21.5%）、カナダ 98 万トン（同+137.5%）、インドネシア 43 万トン（同+167.9%）の順となり、価格競争力で他国に勝るモンゴル炭のシェアが過半を占める状況が続いている。

・ 今年 2 月に中国政府が米国からの輸入炭に対して 15%の追加関税措置を講じたことで、2 月に 127 万トン（構成比 14%）あった米国炭の輸入量は、3 月は前月比▲83.6%の 21 万トン、4 月は同▲63.3%の 8 万トンと大幅な減少が続き、5 月以降は輸入が止まっている。なお、現時点での米国原料炭に対する関税率は、最恵国待遇関税 3%、2 月以降の追加関税 15%、および 5 月以降の相互関税 10%を合わせた 28%となっている。

・ 国家統計局の発表によると、10 月の粗鋼生産量は前年同月比▲12.1%の 7,200 万トンで 6 か月連続の前年実績割れとなり、年初からの累計生産量も前年比▲3.9%でマイナス幅が拡大している。鋼材生産量は▲0.9%の 1 億 1,864 万トンで 12 か月ぶりに前年比マイナスに陥った。中国鋼鉄工業協会が発表した主要鉄鋼メーカーによる 10 月の平均粗鋼日産量は、前年同月比▲8.7%の 189 万トンで 3 か月ぶりに前年比マイナスとなった。なお、国家統計局が発表した 11 月の製造業購買担当者景気指数（PMI）は 49.2 となり、前月の 49.0 から改善したが 8 か月連続で 50 を下回った。

・ 海関総署の発表によると、10 月の鋼材輸出量は前年同月比▲12.5%の 978 万トンで 2022 年 4 月以来のマイナス伸び率となったが、11 月は同+7.6%の 998 万トンとプラスに回復した。自動車の輸出台数は 10 月に前年同月比+41.6%の 82.8 万台、11 月に同+49.2%の 81.8 万台と、前年比二桁台の高い伸び率を維持している。

日本

・ 財務省貿易統計が発表した石炭貿易統計値に基づく 10 月の原料炭輸入量（利用実態に合わせて補正）は、前年同月比+7.1%、前月比+28.1%の 373 万トンと増加した。1～10 月累計の輸入量は 3,335 万トンで、長引く国内鉄鋼需要低迷を背景に前年同期より 4.2%減となった。

・ 強粘結炭 1 トン当たりの平均輸入単価は、2024 年 3 月の約 4 万 8 千円から低下傾向にある中、一般炭と同様に世界的な市況低迷と対ドル円高の進展により 5 月以降は前年同月より 4 割程度低い 2 万 7 千円前後で推移している。

・ 日本鉄鋼連盟の発表によると、10 月の粗鋼生産量は、国内鉄鋼需要産業の長引く低迷を背景に前年同月比▲1.0%の 685 万トン（内、転炉鋼は 73.9%の 506 万トン）と減少し、7 か月連続で前年実績割れとなった。一日当たりの生産量は前月比+4.0%の 22.1 万トン。

ＥＵ

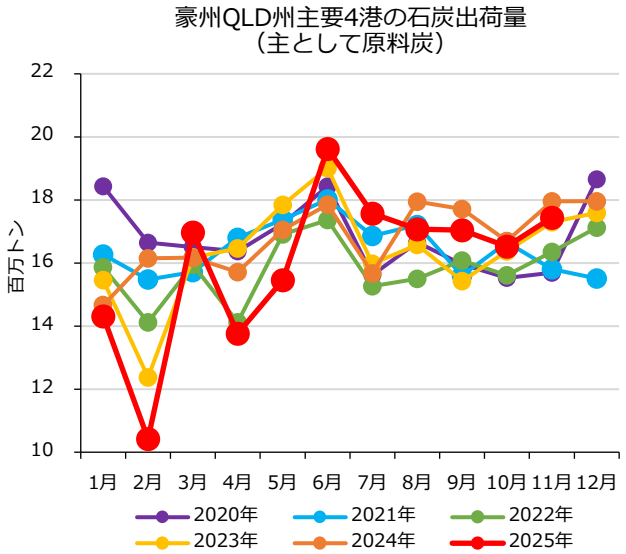
・ 欧州連合統計局（EUROSTAT）の発表による 9 月の欧州域外からの原料炭輸入量は、長期化する鉄鋼需要低迷を背景に、前年同月比▲3.2%の 190 万トンと減少し 10 か月連続で前年実績割れとなった。主な輸入相手国（輸入量）は米国（91 万トン）および豪州（84 万トン）の 2 か国で、全体輸入量の 92%を占めている。1～9 月累計の輸入量は、前年同期比▲18.5%の 1,774 万トン。

粗鋼生産

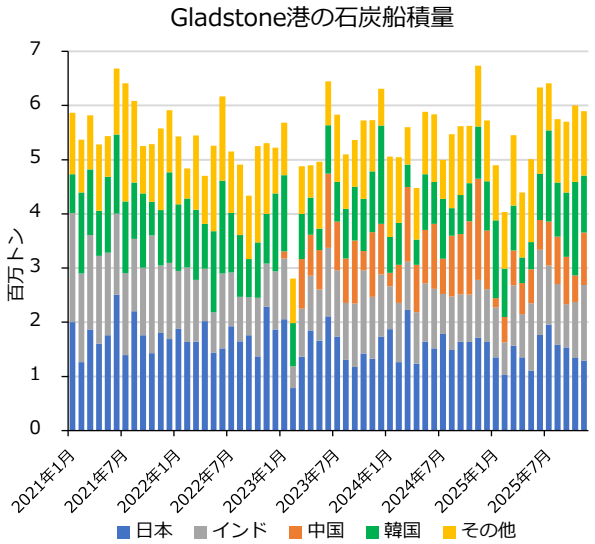
・ 世界鉄鋼協会がまとめた 10 月の世界全体の粗鋼生産量は、前年同月比▲5.9%の 1 億 4,330 万トンと減少した。世界全体の半分近くを占める中国での減産の影響を受け、平年と比べて低い水準で推移している。一日当たりの生産量は前月比▲2.4%の 461 万トン。

・ 中国国家統計局が発表した 10 月の中国の粗鋼生産量は前年同月比▲12.1%の 7,200 万トンと減少し、6 か月連続で前年実績を下回った。一日当たりの生産量は前月比▲5.2%の 232 万トン。一方、インドの粗鋼生産量は前年同月比+5.9%の 1,360 万トンと増加したが、4 か月続いていた前年比二桁台のプラス伸び率が縮小した。一日当たりの生産量は前月比▲3.2%の 44 万トン。

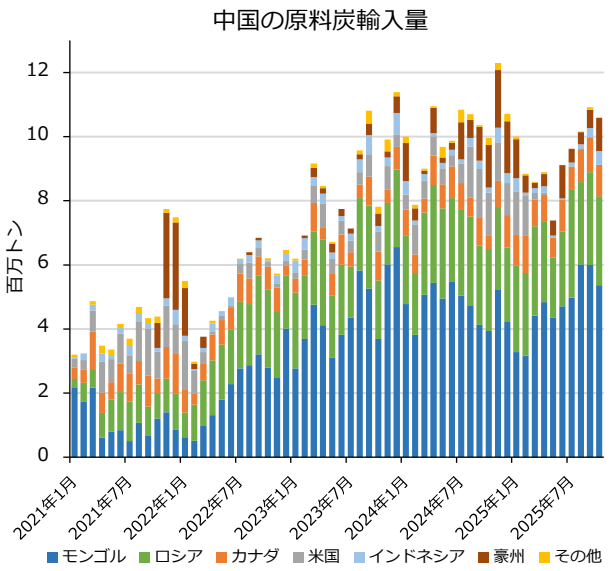
・ 主要鉄鋼生産国のうちインド以外で前年実績を上回ったのは、米国（前年同月比+9.4%の 700 万トン）、トルコ（同+3.1%の 320 万トン）、イラン（同+12.0%の 330 万トン）など。米国は 6 か月連続のプラス伸び率で、堅調に推移している。



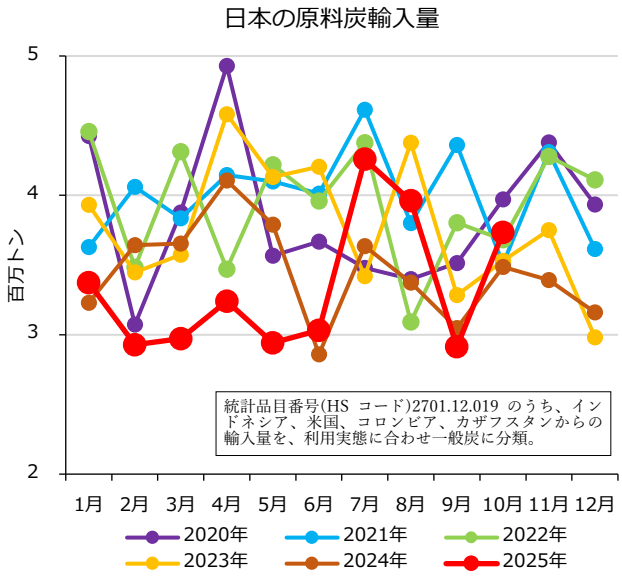
出所：QLD 州各港湾の月次貿易報告



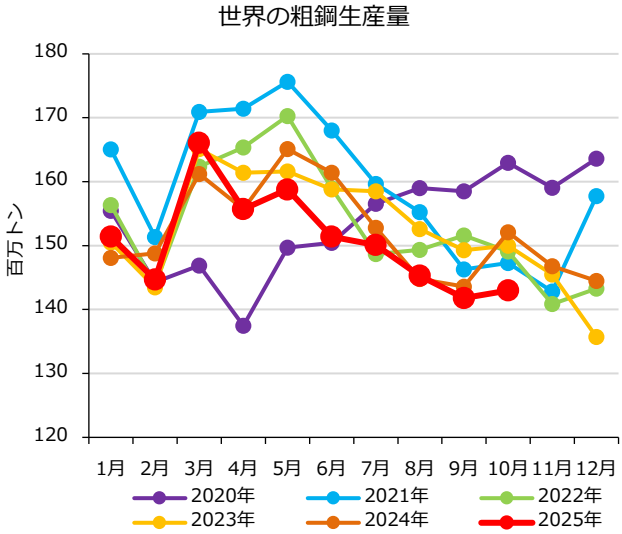
出所：Gladstone 港の月次貿易報告



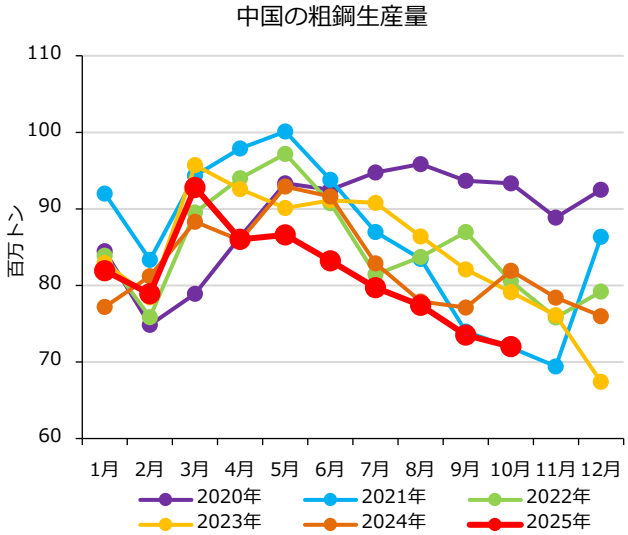
出所：中国海関総署



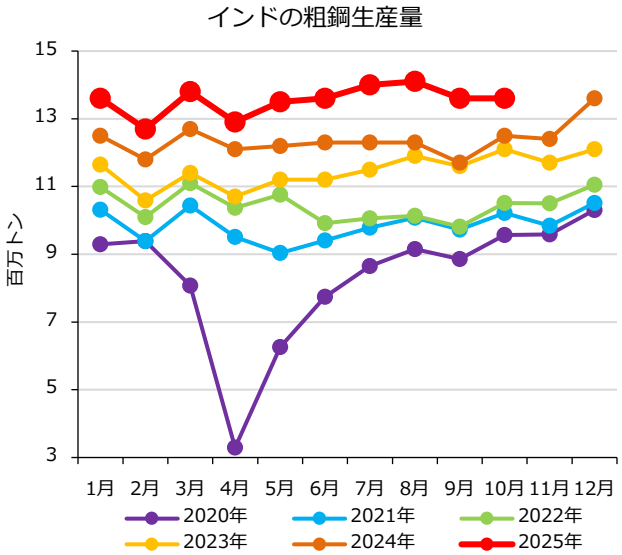
出所：財務省貿易統計



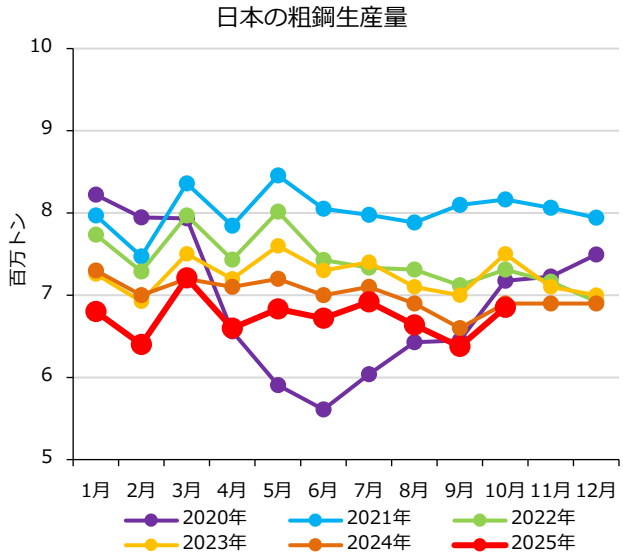
出所：世界鉄鋼協会



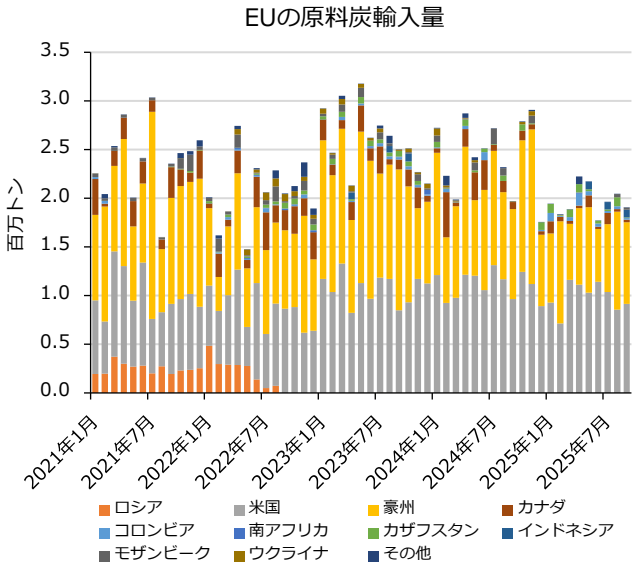
出所：中国国家統計局



出所：世界鉄鋼協会



出所：日本鉄鋼連盟



出所：欧州連合統計局

おことわり：本レポートの内容は、必ずしも独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構としての見解を示すものではありません。正確な情報をお届けするよう最大限の努力を行ってはおりますが、本レポートの内容に誤りのある可能性もあります。本レポートに基づきとられた行動の帰結につき、独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構及びレポート執筆者は何らの責めを負いかねます。なお、本資料を引用等する場合には、あらかじめ独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構から許可を受けてください。